

報道機関各位

阪急阪神ホールディングス株式会社
東 急 グ ル ー プ

阪急×阪神×東急が協働 特別企画列車「SDGs ト레인」の運行を1年延長します



(左・中央：阪急電鉄／阪神電車「未来のゆめ・まち号」

右：東急電鉄「美しい時代へ号」)

阪急阪神ホールディングス株式会社と東急グループは、SDGs^(※1)の達成に向けた多様なメッセージを発信する特別企画列車「SDGs ト레인2020」を、国や自治体・企業・市民団体等と連携して、1年間の予定で運行してきましたが、この度、その期間を1年延長し、「SDGs ト레인2021」として運行を継続することにしました。

SDGs ト레인は、上記のとおりSDGsの認知度向上などを目的に東西で連携して運行していますが、沿線のお客様からは「この電車がSDGsを知るきっかけになった」といったお声をいただいております。

また、この列車は、阪急電鉄・阪神電気鉄道・東急電鉄の最新の省エネ車両を使用するとともに、走行にかかる電力をすべて（実質的に100%）再生可能エネルギーで賄っています。具体的には、これまで^(※2)に使用した約7.3百万kWhの電力を二酸化炭素排出量実質ゼロのエネルギーで調達しており、これによって二酸化炭素の排出量は約2,800トン（25mプールの約2,600個分^(※3)に相当）削減することができました。

社会課題の解決と事業の成長の両立を目指す“サステナブル経営”を掲げる両社グループは、今後も、「SDGs ト레인2021」の東西での協働運行をはじめさまざまな取組を推し進めることで、持続可能な未来の創造に貢献してまいります。

「SDGs ト레인2021」の概要は次ページのとおりです。

(※1) SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国が2030年までに地球規模の17の社会課題の解決を達成することを目標に掲げている。

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

(※2) 2020年9月～2021年7月

(※3) 25mプールの容積を約540立方メートルとして換算

『SDGsトレイン2021』の概要

1. 運行期間

2021年9月8日（水）～2022年9月上旬（予定）

2. 名称・運行区間

<阪急阪神ホールディングス> SDGsトレイン『未来のゆめ・まち号』

●阪急電鉄 神戸線・宝塚線・京都線および相互直通区間で運行

●阪神電車 本線・阪神なんば線および相互直通区間で運行

<東急グループ> SDGsトレイン『美しい時代へ号』

●東急電鉄 東横線・田園都市線・世田谷線および相互直通区間で運行

3. 主催者等

主 催：阪急阪神ホールディングス株式会社、東急株式会社（東急グループ）

共 催：阪急電鉄株式会社、阪神電気鉄道株式会社、東急電鉄株式会社

企画監修：一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

SDGsの達成のために、NGO・NPO、企業など約140団体が参加し、政策提言のほか、SDGsの普及啓発や情報発信、様々な団体との連携の強化を行っているネットワーク団体です。共同代表理事の三輪敦子氏は、日本政府のSDGs推進本部のSDGs推進円卓会議に市民社会からの有識者委員として参加しています。

協 賛：花王株式会社、関西電力株式会社、サントリーホールディングス株式会社、積水ハウス株式会社、株式会社大和証券グループ本社、株式会社竹中工務店、凸版印刷株式会社（50音順）

後 援：外務省、環境省、国連広報センター

協 力：関西SDGsプラットフォーム、JICA関西、社会福祉法人大阪ボランティア協会、公益社団法人日本フィランソロピー協会、一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、特定非営利活動法人市民社会創造ファンド、京都府、京都市、大阪府、大阪市、神戸市、横浜市、川崎市、渋谷区、世田谷区

4. その他

詳細についてはSDGsトレイン公式ホームページをご参照ください。

阪急阪神ホールディングス

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/sdgstrain/top.html>

東急グループ

<https://tokyugroup.jp/sdgs/>

以 上

【SDGsに関する取組事例】

○阪急阪神ホールディングス

<p>◆阪急西宮ガーデンズにおける環境施策 (阪急電鉄、阪急阪神ビルマネジメント、阪神園芸)</p>	
<p>スカイガーデンなどの屋上緑化や壁面緑化を積極的に採用し、ヒートアイランド現象の軽減に努めています。また、太陽光発電パネルや風力発電機の設置、雨水の散水への利用など、自然エネルギーの活用も図っています。このほか、高効率ターボ冷凍機・氷蓄熱システム・ガスコージェネレーションシステムの採用、LED照明の活用や自然光を取り入れる設計等により省エネルギー化を図っています。</p>	
<p>◆阪神甲子園球場の太陽光発電 (阪神電気鉄道)</p>	
<p>阪神甲子園球場では、内野席全体を覆う屋根「銀傘」上に太陽光発電設備を設置し、2010年3月から稼働させています。推定年間発電電力量は約193,000kWhで、これは阪神タイガースが甲子園球場で行うナイトゲーム(年間)で使用するナイター照明の電力量に相当し、火力発電に比べて、CO2排出量を年間で約150トン削減することが可能です。</p>	
<p>◆1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY (阪神電気鉄道、阪急電鉄)</p>	
<p>ビルの照明やネオンを消灯し、まちにキャンドルの明かりを灯すイベントを地域企業と協力して西梅田・茶屋町でそれぞれ開催。環境や普段の暮らしを見つめ直すきっかけとなることを目指しています。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、西梅田開催は2020年度および2021年夏の開催は中止。茶屋町開催は2020年度は中止し、2021年はオンラインコンテンツを中心とした形で2021年9月に開催予定。</p>	
<p>◆阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊 (阪急阪神ホールディングスグループ各社)</p>	
<p>まちの未来を担う子ども達の健やかな成長を応援します。</p>	
<p>◆「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」や「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」による市民団体との協働 (阪急阪神ホールディングス、「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成先市民団体)</p>	
<p>グループ従業員の募金をもとに、会社が同額を上乗せして、阪急阪神沿線の市民団体を助成しています。また、「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」では、阪急西宮ガーデンズ内の「スタジモにのみや」や駅を中心に、お客様参加型のワークショップや展示等のイベントを開催。地域のみなさまと共に、より良いまちづくりへの機運を高めています。</p>	

○東急グループ

<p>◆東急財団による社会貢献活動</p>	
<p>公益財団法人東急財団は、2019年4月、「とうきゅう環境財団」「とうきゅう留学生奨学財団」「五島記念文化財団」を合併して誕生しました。旧3財団の設立時の想いを大切に引き継ぎ、豊かな社会の実現を目指しています。 ・環境部門：多摩川および流域の環境保全に関する調査研究への助成や広報活動、小学校への環境副読本の配布など ・国際交流部門：日本の大学院で学ぶアジア・太平洋地域からの留学生に対する修学・研究活動への資金援助など ・文化芸術部門：オペラ・美術分野の有能な新人への顕彰と海外での研鑽助成、オペラ公演への助成など</p>	
<p>◆とうきゅうキッズプログラム (東急グループ各社)</p>	
<p>小学生を対象に、親子で一緒に職業体験や施設見学、ものづくりなどのプログラムにチャレンジする体験型のイベントを開催。電車の運転や修理体験、バス営業所の見学、ブライダルアテンダント体験など、さまざまなプログラムを通じて社会体験をすることで好奇心旺盛な子どもたちの成長を応援しています。</p>	
<p>◆東急会による地域貢献活動 (東急グループ各社)</p>	
<p>国内外の多くの地域でグループ各社がさまざまな事業を展開しているなかで生まれたのが、各地域で企業活動をしている各社からなる東急会です。現在、国内23地区と海外4地区において、音楽、文化、スポーツなどのイベントを通じた地域の皆さまとのコミュニケーション活動や清掃ボランティアなどの地域貢献活動を幅広くおこなっています。</p>	
<p>◆事業活動における取組 (二子玉川ライズ、南町田グランベリーパーク、世田谷線など)</p>	
<p>自然と共生するまち(二子玉川)や多世代が集えるまち(南町田)など、行政やNPOといった団体と連携した持続可能なまちづくりを推進しているほか、世田谷線では水力および地熱のみで発電した再生可能エネルギー100%の電力による運行を行っています。</p>	
<p>◆東急子ども応援プログラム (東急株式会社)</p>	
<p>東急線沿線で活動する子どもを取り巻く社会課題の解決に取り組む団体へ、助成金の支給などを行うプログラムです。子どもたちの幸せと安全・安心で心豊かに暮らせる地域の持続的な発展を願って2020年度からスタートしました。助成先は、毎年の公募で決定します。2020年度は10団体へ総額844万円の助成を実施しました。</p>	